

### 13. スポレトの代替的移動手段 - ヒトに開かれた街

トピック：ヒトを中心に考えた都市部の輸送システム（イタリア・スポレト市）

#### 特徴

車両の勢いに席卷されてきた歴史のある都市が、ヒトを中心とした街へと生まれ変わろうと、自動車よりもヒトの移動・通行が優先的に考えられた輸送システムを構築した。

#### <プロジェクトの背景と意義>

帝政ローマ時代から活気を帯びていたイタリアの古代都市スポレト（Spoleto）では、近代的な輸送手段（車両）に順応すべく、都市構造を改変してきた。18世紀の後半には、'National Internal Transit Road'を建設し、それは同市の輸送システムに大変革をもたらし、経済をも活性化させた。

しかしながら、一方で、車両と人（ヒト）が中世の時代の小路をともに通っており、当然の帰結として、人の通行状況が悪化してきた（人々が町の中を通行しにくくなってきた）。そこで、自分たちの住む歴史的都市をより人を中心としたスケールに戻そうと、市政府は車両やバスから解放された（車両やバスを用いない）都市部の輸送システムを構築するプロジェクトを立ち上げた。すなわち、スポレト（Spoleto）の歴史的街の中心部に二つの車両駐車場を設け、また、動く歩道やエレベーター、そしてエスカレーターの建設にも取り掛かったのである。

これにより、坂がちな街は、アクセスのしやすいフラット（平坦）な街へと変化し、駐車している車に悩まされることもなく、人々が十分に徒歩により移動できる都市空間を再生することに成功した。

#### <期待される効果>

こうした施策は、大気汚染の縮減や騒音の減少につながりうるものであると同時に、歴史のある街の中心部に経済的な付加価値を加えることにつながると考えられる。

・（仮訳）

・（出典）Synthesis Report of the OECD project on Environmentally Sustainable Transport EST presented on occasion of the International est! Conference 4th to 6th October 2000 in Vienna, Austria.